（試験研究課題年次別解説集様式３号：完了課題用）

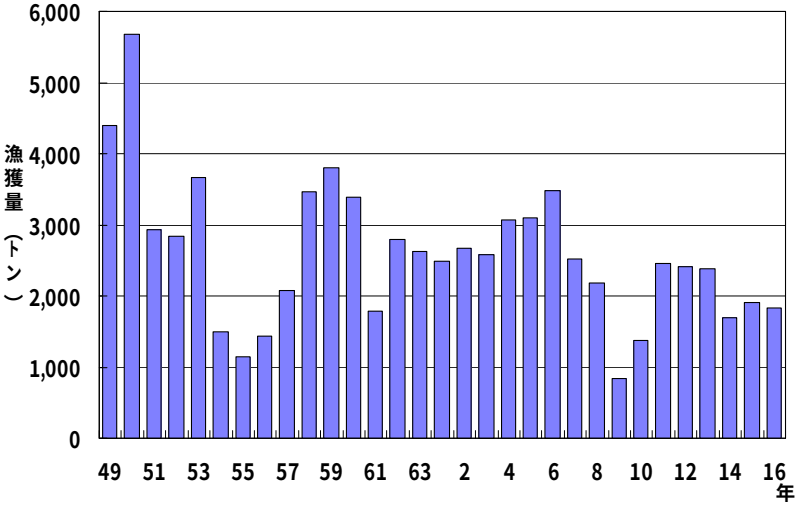
サクラエビ資源変動機構研究

（予算区分　県単　研究期間　平成 14～16 年度）

漁業開発部

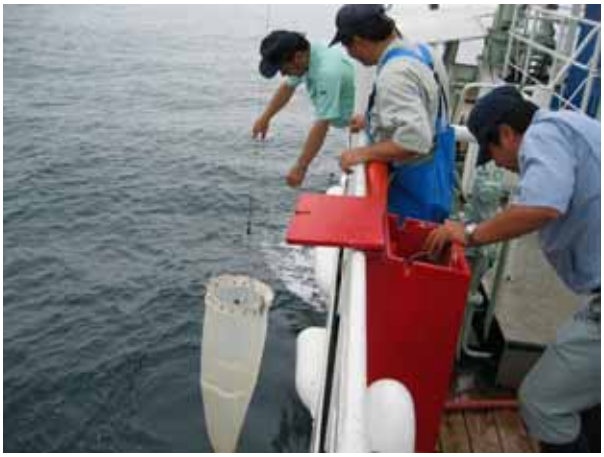
【研究の背景とねらい】

サクラエビは年によって漁獲量が大きく変動することが知られていて、最近 20 年間の年間漁獲量は約 800～5,700 トンの間で推移しています。近年の知見から、春漁で漁獲されるサクラエビの平均体長や産卵時期、水温環境、漁期前の平均体長などから、資源動向をある程度把握することが可能となりました。



サクラエビの年間漁獲量の推移

しかし、過去には現在の予測方法では漁獲変動が説明できない年もあり、今後も適切に漁業を管理し、安定した漁獲量を保つためには、その原因を追及し、漁期前における漁況予測手法の精度向上を図る必要があります。



駿河丸による産卵調査風景

【研究成果】

漁況予測において重要な要素となっている産卵量調査及び水温環境調査について、従来の月 1 回から複数回に調査を増やし、従来どおりの評価方法と比較した結果、産卵量については調査日によって約 7～81 倍の差が見られ、水温環境調査においても、サクラエビの卵、幼生にとっての適水温帯である 18～25℃の水温帯の幅を比較したところ、約 1.2～2.6 倍の差が見られました。このことから、従来の月 1 回の調査では、それぞれの結果を過大または過小評価している可能性が考えられ、それらを適正に評価するためには、月に複数回の調査が必要であることが分かりました。

【研究成果の普及方法】

各年の調査結果については、県桜えび漁業組合役員会、同出漁対策委員会、同漁業生産技術研修会、同通常総会、同船長部会通常総会などで発表してきました。本事業の成果についても、今後これらの会議で発表していきます。

（作成　平成 17 年 3 月）